

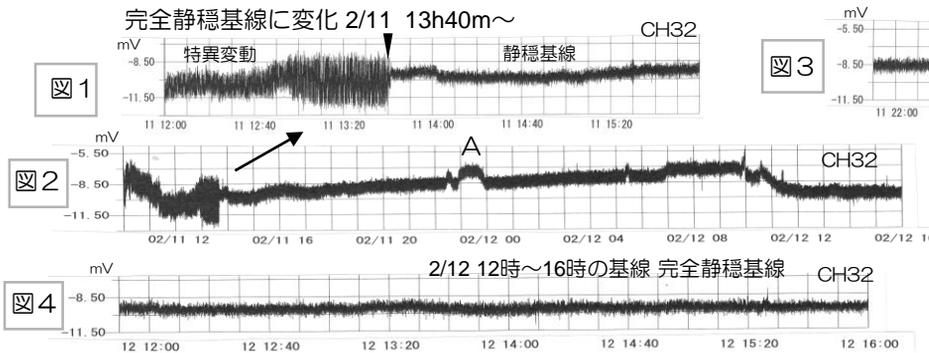
八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

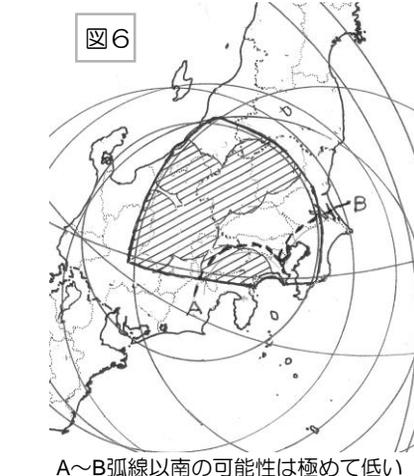
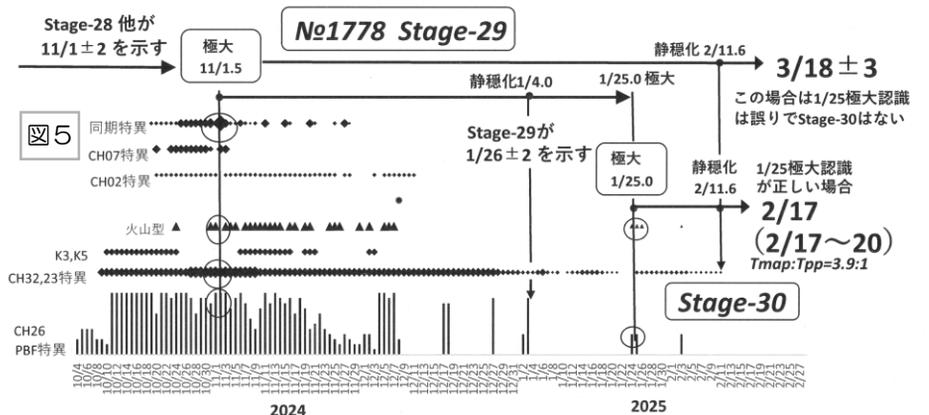
※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報等のみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。2024年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

**No1778長期継続変動 CH32特異変動 2/11 13:40 特異変動終息 静穏基線観測
対応地震 2/17 (2/17~20) の可能性 2024.11/1.5極大の静穏化の場合は 3/18±3**



現在がCH32の静穏期であることは間違いなく認識だが、この静穏化が2025.1/25極大に対する静穏化の場合は2月17日～20日発生の可能性2024.11/1.5極大に対する静穏化の場合は3月18日±3発生の可能性



- 推定領域：図6の太線領域内＝大枠推定領域 図6斜線域＝可能性が考えやすい推定領域 震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または 複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等 Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkm が合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性 ※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：2月17日（2月17日～20日）※1/25極大認識が正しい場合の推定（※2/17～20に発生無い場合は 3/18±3 の可能性が考えられる。その場合は続報）
- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）

◆図1（時間軸拡大波形）図2（時間軸圧縮波形）のとおり、2/11の13時40分、突然、CH32の特異変動が終息し、完全静穏基線となったのが観測されました。

◆2/11.6以降、図2の左端の様な特異変動は一切再出現はなく、現在迄の29時間、基線は静穏基線が継続しております。この2/11.6を1/25極大に対する静穏化とした場合、経験則 Tmap:Tpp=3.9:1 で計算しますと、2月17日発生の可能性が計算されます。

◆但し、図2及び図3のAの様な変動が観測されています。BF特異認識です。今までの様な特異変動ではありませんが、この様な変動が消えた2/12.5過ぎを完全静穏化とした場合は、2/19±2発生の可能性となります。あくまでも明確な特異変動が消えた2/11.6 静穏化認識が考えやすいですが、誤差を2/20までとします。

◆仮に2/17発生の場合で直前変動が出現する場合は2/13.5 中心に特異変動が再出現する可能性もあります。

◆現在の認識が誤りで2024.11/1.5極大に対する変動終息が2025.2/11.6である場合は（1/25は極大でない可能性）、3/18±3発生が計算されます。2/17～20に発生無い場合は、この可能性となります。